

| 論文審査の結果の要旨および担当者 | |
|--|-------------------------------------|
| 学位申請者 | 西村 理恵 |
| 論文担当者 | 主査 若林 一郎 |
| | 副査 新村 健 |
| | 副査 廣瀬 宗孝 |
| 学位論文名 | 補完代替療法に対する医学生への認識 —授業・臨床実習と鍼灸経験の影響— |
| 論文審査の結果の要旨 | |
| <p>我が国の医学部では、補完代替療法 complementary and alternative medicine (CAM) に関する教育が十分に行われていないとの指摘がある。本研究では、医学部学生の CAM 受療経験を調査し、CAM についての知識および考え方・印象を明らかにするとともに、CAM に関する医学教育の効果を検討した。</p> <p>CAM 事例として鍼灸を対象とした。本学の第 4 学年学生に対して、CAM の受療経験とその印象、および CAM に対する知識および考え方・印象について質問紙による調査を行った。調査後、CAM に関する授業を行い、授業後とさらに 2 年後の第 6 学年次に、再度 CAM に対する考え方・印象に関する調査を行った。</p> <p>解析対象は 92 名で、鍼灸を受けた経験がある者は 14 名 (15%) であった。CAM についての知識や印象は、鍼灸を受けた群でより良好であった。これらの調査結果は第 4 学年の講義後には向上したが、第 6 学年次には低下した。それぞれの時点で、鍼灸経験のある学生では未経験の学生に比べて CAM についての知識や印象に関するより良好な結果を得た。特に第 6 学年次には、調査票の 10 項目のうち、「患者の意思を尊重する」、「代替療法は効果があり得る」などの 5 項目での平均ポイントが、経験者では有意に高かった。</p> <p>医学教育モデル・コア・カリキュラムでは「多様なニーズに対応できる医師の養成」が掲げられている。本研究は、本邦での医学教育が不十分であると指摘されている分野であり、「多様なニーズ」に該当する CAM に焦点を当て、実際の医学部学生への調査結果を分析し、特に CAM 経験の無い学生への教育充実の必要性を初めて示した貴重な研究と言える。対象者数は限定的であるが、経時的に妥当な項目が検討されており、信頼性の高い結果が導かれている。よって本研究は学位授与に値するものと判断した。</p> | |